気づいたら、終わり

鈴木フラグ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。

この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

気づいたら、終わり

【Ｎコード】

Ｎ３９５０Ｈ

【作者名】

鈴木フラグ

【あらすじ】

人間は生まれおちてすぐ泣き出す。一方、動物は歩き出す。

都心のスクランブル交差点で信号が変わるのを待っている。

赤から青に変わる。

たくさんの黒い頭が、堰を切ったように流れ出てくる。

恐い。

僕の目にはいつもこの光景が恐ろしいものに映る。

黒、黒、黒、音、音、音、顔、顔、顔…

締め付けられるようだ。肺が動かなくなる。

けれど、立ち止まれない。後ろに人がいるから。彼は歩き出そうとしているから。

心は恐怖していても、心のままに蹲ることはできない。流れを止めてはいけない。青になったのだから、動きだすだろうという、彼らの期待を裏切ってはいけない。

胸を押さえて歩く。

ただし、猛然と、感情を浮かべず、眼は何を見つめるというのではなく、人々、その中心の奥、やや上方に焦点を合わせながら。

中心で、向かい側の人たちと交わる。

突如、胸が軽くなり、解放感に満ちる。ただし、なにか悲しい。

人ごみの中に入ると、「自分」の力ではどうにもならず、ただ流される。ここにはもはや、「自分」というくくりが必要でなく、楽。けれど、「自分」という一個の個体の価値―現実―を叩き込まれてしまい、沈む。

だれだって、「自分」は特別でありたいと思う。括弧を付けたいと思う。日々の生活に満足し、何をするでもなく時の流れにうずもれて、やがて死に、灰になって風に流れ、忘れ去られ括弧が消えることを果たして良しとする人がいるのか。存在しえるのか？

自分。

現実はこれだ。

努力、才能、実績…どれだけ括弧を補強したところで、決してかなわない。

これを信じたくない人は、こんな言葉を思い起こして僕に反論するだろう。

『我思うゆえに我あり』

しかし、僕はこう反論しよう。

『君が思っていることは、本当に「君が思っていること」といえ

るのか？』と。

独自の感受性、オリジナリティなんてものは存在しない。感情は機械だ。特定のトリガーに特定の反応を返すだけの装置だ。それとも、母親がいなくなったときに喜ぶ赤ん坊がいるだろうか？

思考についても同様に論じることができる。思考は感情に起因するものであるし、思考するときに使う言葉という道具は、広く共有される個の中の他であるから。

つまり、自分の思考は、他人である

よって

決して満たされない欲望がある。いや、欲望というものは決して満たされない…？

ならば、欲望の充足のために動く生物という物は何なのだろう。僕にはよくわからない。そして、僕がこう思えるということは、たくさんの人がこう思っているということだろう。

思うに、「考える」という能力を持ってしまったことが大いなる悲劇なのだ。思考できるのは神だけでよかった。僕たちにはその『資格がない』

たまにこういう人ごみの中で刃物を振り回し、無作為に人を殺すなんて事件が起こる。

僕にはその気持ちがわかる。

………………………

スッ

グチュッ

「キャアアアアアアアアアアアアアアア」

だから、あなたもわかるはず。

（後書き）

「会心の笑み」にコメントをどうもありがとうございます！！

しかし、また教育に悪いものを投下してしまった…

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

　ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n3950h/

気づいたら、終わり

2010年10月17日16時57分発行